

な

ご

み

っ

う

し

ん

発行日：平成 29 年 6 月 26 日（第 30 号）

発行：島田療育センターはちおうじ

ぴっぽさんは、中学 1 年生。中学校入学当初は元気に通っていましたが、学校に行けなくなってしまいました。でも、本当はいつもいつも行こうと思っているのです。そんな気持ちを作文にしてくれました。

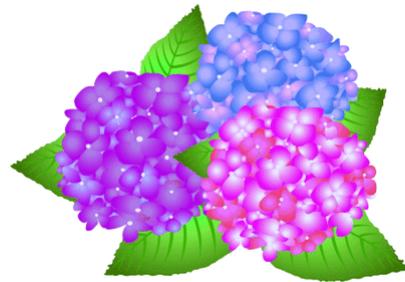
所長 小沢 浩

どうして学校に 行けなくなったか（1） （ぴっぽ）

学校（中学校）で整備委員になり、最初に行った時、何をすればいいのかわからず、居心地が悪くなりました。

楽しいと思っていたギター部も、思っていたのとちがく、行きたくなくなりました。

授業中は、英語が何が何なのかわからなくなり、いつ当てられるのかビクビクしていました。体育ではできなくて怒られるのかと思いました。苦手な水泳は 1 回しかできなかった。グループの人たちでバスケットをやる時も、私にパスをしてくれなくて、頑張っている



けどできなくて仲間外れになるのと自分がうまくできなくてみじめに思うことが多くなりました。

教室に居場所がないように思い、早く土日になってほしいと思っていました。月から金やっと学校が終わり、疲れはてて日曜日です。夜になって、学校に明日行くのかと思い、いやな気持ちでいて、朝になり、もう何もかも逃げたしたくなり、学校を休んだ。

その時、お父さん達は私がつかれていたんだと思い、休ませてくれました。火曜日にも学校に行く気になれず、お母さんの電話する声が聞きたくなくて部屋にこもり、本を読んだりしていました。



おばあちゃんから「外国には学校に行けなくてかわいそうな人がいるんだから早く学校に行くなら行く。行かないのなら手伝いをしたら」と言われ、その時はやる気がなく何も感じない、ただの人形みたいになっていた。家にも笑いもせず、ボーとしていました。何も楽しくなくて、何で学校に行けなくなっただろうとっていました。

毎日夜お父さんからおこられ、朝はお母さんに質問され、疲れてどうして何もわかってくれないのかとかもういやだなあとか死にたいなあとも思いました。

しばらくして心の教室に行って、カウンセラーさんにいろいろ相談しました。そんなとき、M先生に会いに行くことになりました。最初は中にも入りたくなかったし、ずっと車の中にいきました。しばらくしてM先生と話し、薬をもらい、今は前みたいに暗くなったりしないのでよかったと思いました。



お父さんもお母さんもM先生と話し、怒らなくなりました。でも、家の空気は重く、みんなしゃべらずとにかくくらかったです。

そんな時、N君（兄弟）が鳥を飼うと言い、小さな箱にまだふさふさの毛のピッポを買い、すこしみんな明るくなりました。でも私の不登校はなおらず、いつもピッポといっしょにいてテレビを見たり、お昼ねをしたりご飯を食べたりすごくかわいいです。1日中ピッポといたので、なついてずっと肩にのったりして、すごくいやされます。

今は不登校児を対象にした通級学級に行ったり、心の教室に行ったりで過ごしています。

（奇跡がくれた宝物 小沢浩著

クリエイツかもがわ より）

